

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）  
セッション討議内容の記録

セッション名：物流計画（3）	
日付：11月 21日（土）曜日、セッション時間：13:15～14:45	
司会者名（所属）：山田忠史（京都大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <p>当セッションで発表された3件の論文のうち、1件は荷主と顧客間の物資流動量の推定方法を対象とし、残り2件は、国際物流に関して、航路推定手法と港湾間物資流動量推定手法を、それぞれ取り扱っている。</p> <p>荷主と顧客間の物資流動量の推定方法については、使用された説明変数の妥当性に討議の中心が置かれた。一方、国際物流については主として、航路や港湾間物資流動量の推定に困難が生じる要因、例えば、中国の港湾の特殊性や各国のデータ開示状況の相違について、追加説明および討議がなされた。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(127) Wisetjindawat Wisinee（名古屋工業大学）</p> <p>離散選択モデルの説明変数に用いられている距離の解釈について、議論が行われた。当該論文の表記では、配送頻度の選択肢と距離の選択肢の表現に誤解の生じやすいことが指摘された。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(128) 安福皓介（神戸大学）</p> <p>航路推定手法の改良の可能性、例えば、航路全体ではなく、最初と最終の寄港地を推定することや、港湾そのものではなくエリアを推定する方向性について議論が行われた。また、今後のわが国の港湾政策として、港湾間の競争から協調へ移行すべきであるとの方向性が示された。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(129) 小坂浩之（（独）海上技術安全研究所）</p> <p>税関別の貿易統計を利用して港湾別の国際貨物流動量を推定する際に、問題点となるのが、各国のデータ開示状況の相違、特に、シンガポールやタイの貿易データの不透明性であることが示された。また、長期的な推定の可能性についても議論が行われ、その困難さが指摘された。</p>